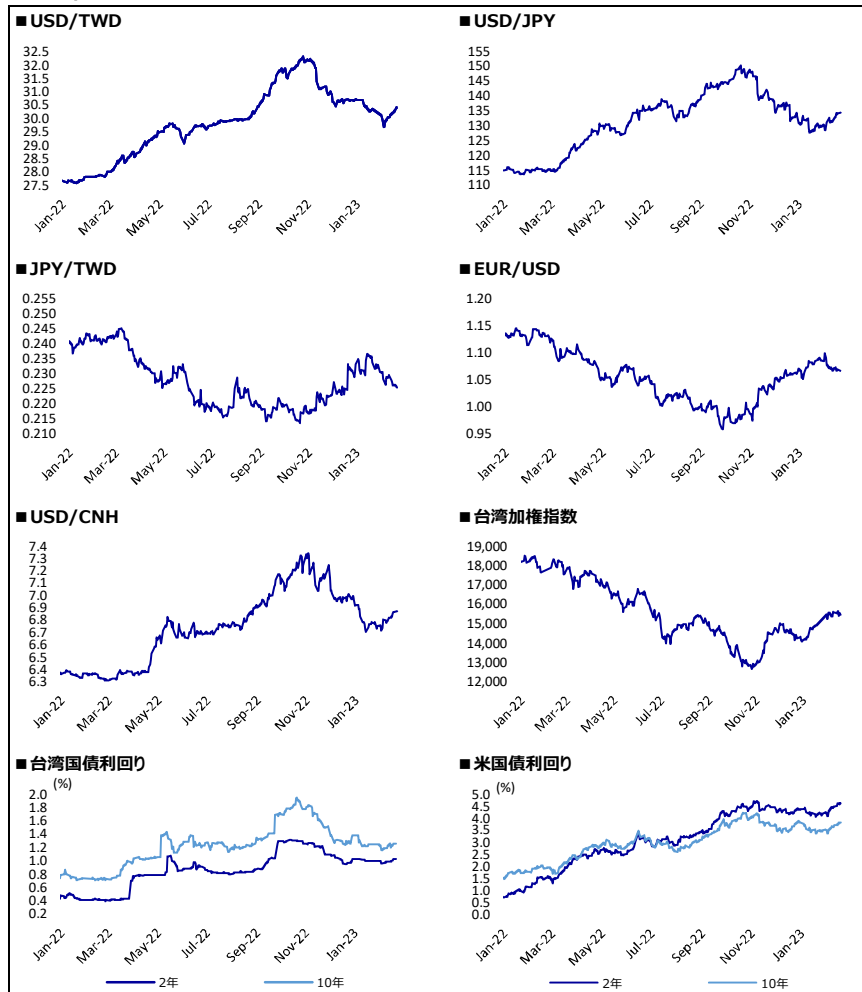


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初2/13は30.190でオープン後、台湾株の下落につられて、30.25付近まで上昇。その後は翌日に米1月CPIの発表を控え、レンジで推移。2/14は様子見ムードが強まり、30.200ちょうども挟んでレンジでの推移となった。2/15は米1月CPIの結果を受けて米国の利上げ長期化懸念が高まり、米株が下落したことから台湾株もつられて下落。台湾ドルも売りが優勢となり、30.3台に乗せた。2/16は台湾株が反発したことに加え、輸出企業のドル売りも入り、30.2台半ばに戻した。2/17は台湾株が下落すると外国人投資家の台湾ドル売りが優勢に。国内から海外投資のためのドル買いも加わり、じりじり上昇し、一時30.416をつけた。2/18は土曜営業日で、閑散とした取引となり、レンジで推移し、最終的に先週比0.9%ドル高台湾ドル安の30.410で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は93.2億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初2/13は131.30でオープン後、日米金利差が拡大する中、日銀人事案を巡る不透明感が和らいだこともあり堅調に推移。133円の手前まで上昇したものの、翌日に米1月CPIの発表を控えていることもあり、買いは一服し132円台半ばに戻した。2/14は注目の米1月CPIは前月比では予想通りであったが前年比では予想を上回った。CPIの発表直後は乱高下したが、一巡するとインフレ長期化への懸念が高まり、米金利が上昇し、ドル円もじりじりと133円台前半まで上昇した。2/15は米金利の上昇が一服したことからドル円も132円台後半まで戻したが、米1月小売売上高や2月NY連銀製造業景気指数がいずれも市場予想を上回ったことから、米金利上昇とともに134円台前半まで値を上げた。2/16は前日までのドル円の上昇が一服し、133円台後半に小幅に下落したが、米1月PPIが発表されると予想を上回り、利上げへの警戒感が高まる中、米金利上昇、ドル買いで反応。FED高官からのタカ派発言もあり、134円台前半まで上昇。2/17は前日の流れを引き継ぎ、じりじりと上昇すると135円台に乗せ、一時135.12と約2か月ぶりの水準をつけた。その後は利益確定の動きや米国の連休を控えて調整の動きが強まり、最終的に先週比2.1%ドル高円安の134.15で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.150-30.480
今週は下落を見込む。強い米経済指標が続く中、米金利の上昇が続いたが、一巡し、月末の輸出企業のドル売りが優勢となり、台湾ドル高となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：132.00-136.00
今週もボラタイルな相場になると見込む。1月のFOMC議事要旨が発表される他、植田新日銀総裁候補の所信聴取も予定されており、日米の金融政策への見方が大きく変わる可能性があるため注意したい。特に植田氏がイールドカーブコントロール、マイナス金利について自身の考えを言及した際には大きく反応すること考えられるため、警戒したい。

今週の予定

2/20 (MON)	台湾1月輸出受注、台湾Q4経常収支、米国休場
2/21 (TUE)	米2月製造業/サービス業PMI
2/22 (WED)	台湾1月失業率、台湾Q4GDP改定値、FOMC議事要旨
2/23 (THU)	台湾1月鉱工業生産、米Q4GDP改定値
2/24 (FRI)	米1月個人所得・支出、米1月新規住宅販売件数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。